

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 2 月 14 日作成)

委員会名	基礎構造の限界状態設計法小委員会	主 査 名：小林勝己
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (基礎構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：時松孝次
設 置 期 間	2003 年 4 月 ～ 2007 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>「基礎構造の限界状態設計法」の確立に必要な、基礎データの収集と分析、設計手法の検討と検証を行う。</p> <p>初年度：設計定数の統計資料、載荷試験利用方法に関する知見を収集、信頼性理論に基づく設計方法の検討、荷重指針の「土圧・水圧」の章を執筆</p> <p>2 年度：収集された知見の分析と方向性の検討、従来設計法とのキャリブレーション、3 年度：シンポジウムの開催、4 年度：問題点の整理とまとめ</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	安達俊夫 (日本大学)、梅野岳 (久米設計)、小椋仁志 (ジオトップ)、桑原文夫 (日本工業大学)、小林勝己 (フジタ)、西山高士 (大林組)、鈴木誠 (清水)、鈴木康嗣 (鹿島)、篠崎洋三 (大成)、椿原康則 (竹中)、永田誠 (新日鉄)、本城勇介 (岐阜大)、吉田正 (東京ソイルリサーチ) 13 名	
設置 WG (WG 名：目的)	1)地盤パラメーターWG；「地盤パラメーターの計測値から設計値を導く方法」について、具体的な手法の検討、例題の作成、従来法とのキャリブレーションを行う。 2)杭の載荷試験 WG；「杭の載荷試験結果から安全係数を含めて設計用支持力を導く方法」について、具体的な手法の検討、例題の作成、従来法とのキャリブレーションを行う。	
2004 年度予算	150,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	小委員会 5/21(10 人), 7/13(9 人), 9/15 (8 人) ,12/10 (9 人) 地盤パラメータ WG 10/6(4 人), 11/8(4 人), 2/16(4 人) 杭の載荷試験 WG 10/7(4 人), 11/11(4 人), 1/26(4 人), 2/8(2 人), 2/17(4 人)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度収集した高密度ボーリングデータの結果を分析し、地盤パラメーターの空間的変動を評価する方法を理解した。 ・ 文献調査等の結果から、杭の載荷試験を荷重・耐力係数に反映する方法を理解した。 ・ ERTC10 及び TC23 が主催する Eurocode 7 の評価に関する国際ワークショップに、当委員会の手法による例題の試算結果を報告し、わが国の土木分野のみならず国際基準との比較を実施した。
	委員会 HP アドレス：
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 限界状態設計法の具体的な手法の検討、例題の作成、他の機関とのキャリブレーションについては実施済み。従来設計法とのキャリブレーションについては実施できなかった。したがって達成度は 70%。
その他評価すべき事項	本年度の大会の PD「地震時土圧をどう考えるか」の開催をバックアップした。